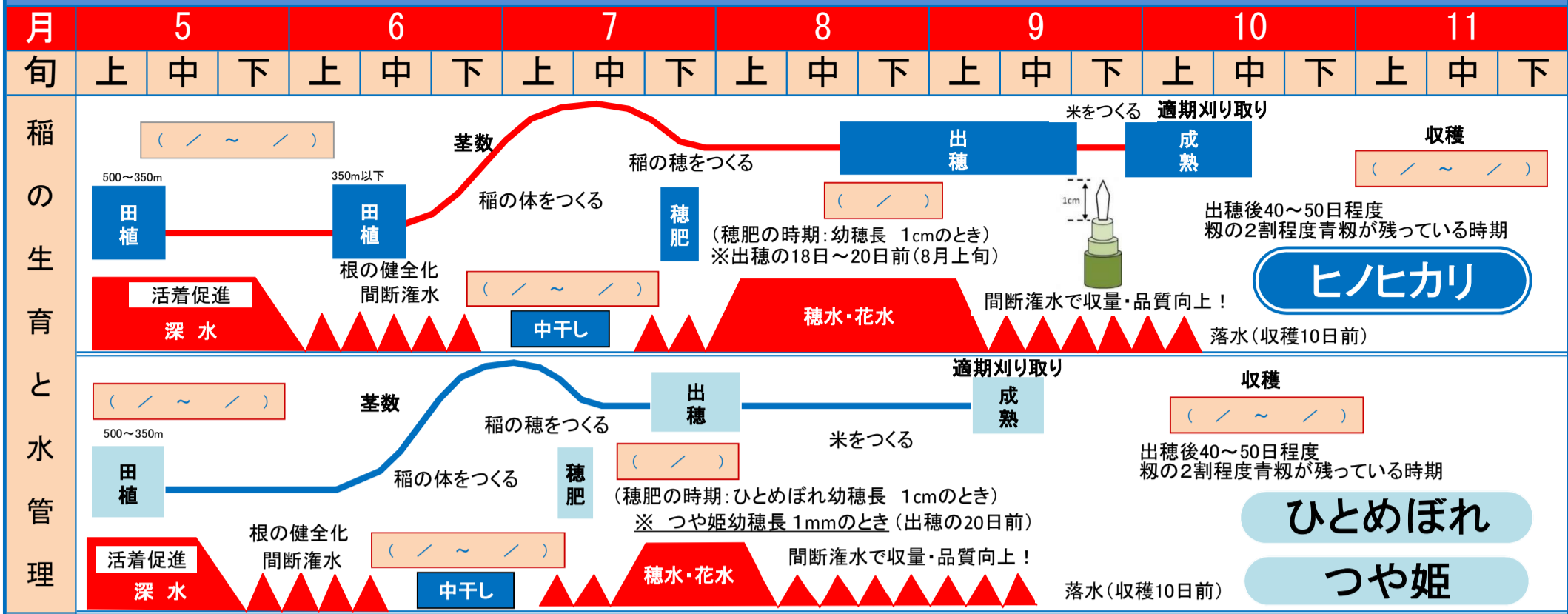


2024年度 竹田市水稲栽培暦



獣害対策	鹿ネット設置・苗の食害防止	電気柵の設置 猪等の侵入防止	柵の点検・柵周辺の草刈	～年内 天地返し 2番穂鋤込
------	---------------	----------------	-------------	-------------------

栽培のポイント

育苗	①箱消毒 イチバン(500~1000倍液) ②塩水選 うるち比重 1.13(塩:4.0kg/水:20L) ③種子消毒 ・テクリードCフロアブル200倍+スミチオン乳剤1,000倍 24時間種子浸漬 ・温湯消毒(特別栽培米) ④浸種 積算水温で100℃を基準(水温18℃・・・6日間) ⑤播種 うす播き(120g~150g) ⑥苗立枯病対策 タチガレエースM液剤(500~1000倍) タチガレン液剤(特別栽培米・1成分)
田植	※ヒノヒカリは高温登熟障害が発生しやすいので極端な早植えは避け、適期に田植を行いましょ。 ①1株植付本数3~4本。 ②株間 22~26cm (1坪当り 50~40株) 株間 22cm ⇒ 1坪当り50株 株間 26cm ⇒ 1坪当り40株 ③除草剤散布後は補植をしない。 ④補植苗は田より早急に撤去する。(いもち病の発生源)
中干し	1株に茎数が20本程度確保できたら、田面にヒビが入る程度(ヒビの幅が約1cm)に干す。

病害虫	紋枯病 イヌメイガ ウネミグイ ズンゾコ カウコバチ シイ	稲ことうじ病	いもち病	カメムシ類	ウンカ類	いもち病
	防除時期	播種時 移し植当日	出穂 10日前まで	出穂 5日前まで	出穂 30日前から	前穂後期
防除	スクラム箱粒剤 (防人箱粒剤)	Zボルドー 粉剤DL	ドイツボルドー A	コラトツ プ粒剤5 (1成分)	スタークイ ル (2成分)	スタークイ ル (2成分)
	施用量	50g/箱	3kg ~4kg /10a	2000倍・60L 150L /10a	3kg ~4kg /10a	1000倍・60L ~150L /10a

品質向上のポイント

◎「高温登熟障害」に注意
「高温登熟障害」の症状は、白未熟粒の増加や充実不足等で検査等級及び食味の低下をもたらすため、適正な管理を徹底する。
◎施肥基準の遵守
気象変動に対応する稲体づくりのため、基準を参考に施用。

10a当たり(kg)	窒素		リン	カリ	
	元肥	穂肥		元肥	穂肥
ヒノヒカリ	4	3(計7)	8	6	3(計9)
ひとめぼれ	3	2(計5)	8	6	3(計9)

※側条施肥・一発肥料は1割減

◎こまめな水管理
水のためっぱなしはガス湧きの原因となる。栽培期間中は、間断灌水(3日灌水4日落水)を行う。水が豊富な地域では、登熟期に掛け流しや夜間のかんがいにより地温の低下が図れる。収穫時期には落水時期延長などを行い、根の健全化を図る。
◎適期刈取り
早刈り・刈遅れに注意。収穫適期は籾の2割程度青籾が残っている時期。早刈りは未熟粒が増え、刈遅れは胴割れ米、茶米が発生しやすくなる。
◎乾燥調整
ムレ米発生防止の為に刈取後は早急に乾燥施設へ持ち込む。高温乾燥・過乾燥・急速乾燥を避ける。(胴割れ米の発生)
(適正水分14.5~15%) (調製:網目1.85)

除草剤の使い方

初・中期一発剤	特栽 移植時・移植直後 ~ノビエ3.5葉 プライオリティ(2成分) (粒・ジャンボ・フロアブル) ノビエ・広葉	移植時・直後 ~ノビエ3葉 エンペラー (粒・ジャンボ) ノビエ・広葉	移植時・直後 ~ノビエ2.5葉 ウニングラン (粒・ジャンボ・フロアブル) ノビエ・広葉
中後期剤	移植後7日 ~ノビエ4葉 クリンチャー (粒・ジャンボ) ノビエのみ	移植後15日~ バサグラン (液・粒) ※落水散布 広葉のみ	移植後14日 ~ノビエ4葉 レプラス (粒・ジャンボ・エア一粒) ノビエ・広葉
	移植後20日 ~ノビエ6葉 ワイドアタックSC ※落水散布 ノビエ・広葉		

処理層が作られるためのポイント

散布→溶け出し → 拡散・沈降 → 土壌吸着 → 処理層が出来ればOK

散布後約1~2日 水中に有効成分拡散

散布後3~4日 拡散した成分が徐々に土に吸着

しっかりとめて3~4日は田面の水を動かさないことが重要!

- 代かき・あぜ塗り・均平化作業は丁寧に
- 浅植えや浮き苗が生じないように適正な深度で植えつける
- 除草剤処理前にしっかりと入水(水深5cm程度)
- 散布後3~4日は入水・落水禁止(水を動かさない)
- 4日目以降、田面が乾燥でひび割れる場合は静かに入水
- 除草剤散布後の補植は、処理層を壊すため行わない
- 田植同時処理を行なう場合は、薬害が発生しやすいため上記を確実に実施した上で、更に①代かきから田植の日数を短め(1~2日程度)にする、②ひたひたの浅水で田植をする、③田植後すぐに(12時間以内)に入水する、を心がけてください。

※使用にあたっては必ずラベルを読んでください。

土づくり

- 粗大有機物投与による土壌改善
- 土壌改良剤による調和のとれた土作り
- 深耕による有効土層の拡大
- 3年に1度の土壌診断による適正管理

堆肥や稲わらを還元しない圃場では、地力の低下が懸念されます。地力の低下は、収量だけでなく、検査等級や食味の低下をもたらします。土壌診断を実施し、足りない要素を補いましょう。

有機物の施用方法

稲わらの鋤き込み(分解促進には「ワラ分解キング」、
「アグリ革命」等の資材を活用)

土壌改良材の施用方法(耕起前)

普通田	ケイカル、ミネラルG 100~200kg とれ太郎 50~60kg けい酸加里プレミア34 40kg 土改王 60~90kg
湿田・砂湿田	珪鉄 150~200kg

秋落ち現象(根腐れ)防止と倒伏及び病害虫の軽減効果を図るため、必ず施用する。

肥料の施し方

通常分施	元肥	化成肥料12-18-14	一般栽培米		特別栽培米		
			施用量(kg)/10a	窒素成分量(kg)	施用量(kg)/10a	窒素成分量(内化学肥料)(kg)	
一発肥料	穂肥	化成肥料16-0-16	ヒノヒカリ	30~40	3.6~4.8	特栽用BB852 (8-15-12)	ヒノヒカリ 40~50 3.2~4.0 (1.6~2.0)
			ひとめぼれ	20~30	2.4~3.6	特栽米用追肥047 (10-4-7)	ひとめぼれ 30~35 2.4~2.8 (1.2~1.4)
	苦土入りエムコート477 (14-17-17-Mg ³)	ヒノ(100日)	45~50	6.3~7.0	レコアップ入り 有機エムコート1088 (10-8-8)	普通期(ヒノ)	60~70 6.0~7.0 (3.0~3.5)
		ひとめ(90日)	30~35	4.2~5.0		早生(ひとめ)	40~50 4.0~5.0 (2.0~2.5)

※施肥量は土壌、地力、施肥方法、天候等により適宜増減してください。

監修・発行 竹田市農政振興協議会